



月刊「HANAYASURI」2023年2月号（通巻10号）

表紙／沢田幹代 Mikiyo SAWADA

P2-3 巻頭エッセイ「縁は川を流れる葉の如く」相地透

P4-8 「2023年2月 書肆花鏡観察会シーズン、開幕。」

P9 「少年期の椋鳩十・心浮き立つ阿島のお祭り」菅沼利光

P10-11 観察会レポート①「冬の大井を歩く」池田泰子／②「第六回西味鏡観察会」大西直美

P12-13 連載「子どもが不思議と出会う時（十）」森下京子

P14-15「チェインオブライフ」相地満 P16 <一枚の絵> 岩田郁代

P16 詩「冬の中から春が芽生える」相地満

P17 詩「はじまりのことば」伊藤康子／<一枚の写真>「脱け殻」相地透

P18 日常エッセイ「おいしいみやげ話8」長谷川芙実子

P19 日常エッセイ「冬にわかれて」相地透



## 巻頭エッセイ「縁は川を流れる葉の如く」

少し前から、こんな問いを考えている。

「人は一生のうちにごれぐらいの大切な人と出会うのだろうか」

「出会う」の定義は「対面して挨拶し、顔見知りになる」とする。

細かい計算は苦手であるため、おおまかに考えてみる。例えば、生まれてから100歳までに毎日、一人の人と出会ったと仮定する。とすると、365×100年なので、3万6500人。私が住んでいる名古屋市熱田区の人口は6万7000人弱。半分以下である。ちなみに、熱田区は名古屋市内では一番人口の少ない区である。

私は今年43歳になる。数え年でいうと44歳。つまり、昨年末で43×365＝1万5695人の人と出会ってきた計算になる。だが当然、毎日誰かと出会うという事は無い。1週間に一度も出会わない。だから、この数字はまったくの見当違いである。おそらく、1万人にも遠く満たないだろう。思い返してみると、十代の頃の入学式が、一日にもっとも多くの人と出会った日のような気がする。

さて、1万人にも満たない出会いの中で、今でも連絡を取り合う人たちはどれくらいいるだろうか。子どもの頃から近くにおいて、特別理由もなく気が合うというだけで一緒にいた幼馴染。学生時代にふざけ合い、将来に向けて語り合い、少なからず行動や思考に影響を与え合いながら一緒にいた仲間たち。各年代の学びの場面で出会った先輩・後輩たち。仕事に就いてから出会ってきた人たち。言わずもがな、その数を数えたいという訳ではない。

「縁は異なるもの、味なもの」という諺が好きだ。本来は、男女の出会いや結びつきは不思議なものである、という意味で使う。だが、縁というのは男女の出会いに限ったことではない。人と人との出会いすべてが縁と言っているのだと思う。その中に、望む縁、望まぬ縁がある。出来るだけ望まぬ縁は減らしたいが、望んでなかったのに長く続く場合もある。

書肆花鏡としての活動をはじめて、5年目の年が始まった。この数年間の出会いは本当に大切なものが多く、たった一度だけお会いした方も、数十年ぶりにお会いした方も、その日の会話は心に残っており、「今、あの人はどうしているだろうか」と、ふと考える時がある。たった一度。たった一日。それでも大切な出会いである。

忙しくなるにつれて連絡が疎遠になっていった人もいる。数年前までは頻繁に会っていたのに、今はまるで会うことが無い。でも、だからといって大切に無くなった訳ではない。お互いの時間が寄り添わなくなっただけのこと。きつと元気にしているだろう。

人と人との交流は、移ろい行くもので、雑木林の小川を流れる一枚の葉っぱに似ている。大木を離れ、小川に流れ落ちた一枚の葉っぱは、下流に向かって流れる。小川は雨量によってさらさらと流れている時もあれば、水が干上がっている時もある。流れの途中には、水溜まりがあり、一度そこに落ちると、再び下流への流れに乗るまで、ぐるぐると回り続けたり、岸辺や石に張りついてしまったり。石に張りついた葉っぱを横目に、するすると下へ下へ流れていく葉っぱもある。けれども、それは一時的なこと。もしかししたら、下流で石に引っかかっている時に、再び出会うかもしれない。

最初の問いに戻る。

「人は一生のうちにごれぐらいの大切な人と出会うのだろうか」

現時点での私の答えは「人それぞれの気持ちの持ちようによって、多くも少なくもなる」。残念ながら、何とも言い難い微妙な答えしか出なかった。折を見て、これから先も自分なりの解答を出すべく考えていこうと思う。

ただ、兎にも角にも、まずは出会うことから始まる。新しい出会いを楽しみにしながら、今年も、「今、これをやらなくては」と思う事を実現できるように、一つ一つ、がんばっていききたい。

縁は川を流れる葉の如く。本誌がどのような流れに乗って、一年の終わりに何処に辿り着くのか。一緒に考えながら、その道程を楽しんで頂けると幸いです。

（相地透）